215901
昭和25年10月18日

藤好静口供

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

第壹号

明治十年七月十九日申立

高知縣士族　藤　好靜　明治十年二十六年生月日不覚

一自分儀高知縣士族ニテ戸主藤為濤ノ第十男ニ付無禄ナリ

一為濤住所ハ高知縣第八大區一小區鐵砲町ニテ縣廳ヲ距ル一二十町内外ナリ

一為濤儀ハ非役ニテ禄高ハ確ト記憶セサレ共當時二十二石余自分ハ右第三男ニ付無禄ナリ

一明治二年長州肥前高知三藩ヘ徴兵ノ命アリタルニ高知藩兵隊ニ加リ大隊長山路忠七ヘ附屬出京シ其年十月中帰国其後解隊ニナリタ

一明治五年月日不覺修業ノ
幹（該時司法者ヘ出仕セリ）宅ニ滞留深川ノ為メ出京親属仲正
門ニ洋学ヲナシタリ
一明治五年中月日不覺病氣ニテ退塾シ再ヒ仲
正幹宅ニ滞留療養シタル処追ニ全快シ其際
一佐賀動揺ノ事件ニ付警視廳ニテ試験ヲ受ケ
遂卒業速部拝命其後ニ旬モ経サル内巡査ト
一改称佐賀縣ヘ出張且ツ同縣滞在中探索ノ事
ヲ命セラレタリ其後六月中同縣犯罪人ヲ護
送シテ阿州ニ至リ績ヲ帰京セリ
一明治七年九月申依願免セラレ直ニ帰縣
ノ積リナル処當時仲正幹大患ニ付看護ノ為
メ滞在ノ処同人遂ニ死去セシニ付翌八年三
月帰縣シタリ其以来ハ出京セス
一右帰縣後何ニモ従事セサリシ処九年十一月
頃長州前原等募挙ノ節高知縣廳ニテ巡査被
命ニヶ月程奉職セシニ減員ノ内諭有之十月
下旬日不覺願ノ上免職ニナリタリ
一高知縣立志社ヘ入社セシハ明治八年東京ヨ
リ帰縣シタル後ナリ尤其節病氣ニテ療養シ
居タルニ付八年六七月頃ヨリノ入社ト覚ヘ
リ
一入社ノ手續ハ社中ノ規則ニ対シテハ先其規則ヲ
承知シ承知セサルニ係ハラス何事ヲ社員ト
共ニ脇力スルヿナリ自分入社ノ節ハ唯其姓
名ヲ簿冊ニ登記シタルニ止テ別ニ手続ハナ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

シ該時社長ハ片岡建吉ニテ今日モ矢張社長ナリ

一立志社ニ於テハ素ト民権家ノ集リタルモノニテ即チ民権ヲ擴張シ人民ヲシテ自主自由ノ権ヲ得セシムルノ目的ナレハ自ツカラ人智モ幾分カ開クルヘキニ付自分モ入社セタルナリ尤別ニ定リタル事業ハナケレ共都テ人民タル者ハ一身一己ノ事ヲ保全セ子ハナラヌ丁ニ付其方法等ノ研究スルナリ

一一社ヲ設立スルモ金権ナキトキハ永続ノ道立サルニ付立志社内ニ於テ傍ラ高法ヲモ開キ居ルナリ

一社中色ニ講習スル丁ナル氏一時ニ施スニハ至ラス追ニ盛大ニ至レハ小區會ハ勿論大區會并縣會ヲモ開キ夫ヨリ順次民選議院ニモ及ホスノ旨意ナリ

一明治九年自分入社セシ頃惣人数ハ睨ト覚ヘサレ共凡二百名位ノ人員ト思考セリ其内重モニ出席スルハ一百五六拾名位アリ其後追々増加シ當十年ニ至テハ三百人余ニ至レリト承知セリ

一社中集會ハ八月ニ一度ツヽ惣會之レアリ社長副社長（自分入社ノ頃ハ副社長ナリシ）必出席ス現今副社長ハ都テ何事ニヨラス社長ヨリ議題ヲ出シ其議案ヲ書面ニテ出スモノアリ又演舌ニテ申入ルヽモノモアリ

一社員組合二十人ヲ以テ一組ト定メアレニ付三十人一組モアリ
住居最寄ニテ取結フモアリ且其内ニハ旅行等ヲナ
又五六名一組モアリ尤現今ハ十一組アルナ
スモアリテ一定セス
リ

一一組丈ノ集會ハ時々アレニ毎月一度十四日
ヲ式日ト定メ總社員大集會ヲナス規則ナリ

一立志社ハ本社ハ第八大區一小區京町ニテ旧
藩ノ町會所跡ナリ且社中ニ商局ヲ開キ商
副社長其他役員ハ皆ナ出勤スルモノハ社長
業モ取扱居ルニ付右ノ人員モ同様日ニ出頭
スルナリ

一社中ノ役員ハ社長副社長幹事書記ナリ尤書
記ノ名ハ承知セス

一目今ノ幹事誰ナルヤ記ラス氏曽テ幹事ヲ勤
メシハ池田應助山田平右衛門島地某岩崎長
明等ナリ

一社中ニ庶務出納等ハ無之會計課ノミ有之其
會計課ハ商局ニ附属シ居リ出納等モ社長ノ
命ニテ商局ヨリ出ス迄ニ付自分等ハ更ニ承
知セス但シ商局ノ事ニ付テハ社長ノ知ラサルコトモアリ

一社金ノ出来タル原因ハ素ヨリ兼知セス右社
ノ立チタルハ自分東京滞在中ナルカ故ナリ

一立志社ノ起リハ前年征韓論破論ノ時東京ヨ
リ帰縣ノ者等迂ニ協議シ合ニ勉強ニテ設立

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

セシモノナリ

一社中ニハ學校モアリテ夫ニ勉強セリ

一社中学校生徒ハ夫モ学資金ハ出モ出ズ若モ不足アレハ本社會計ヨリ償フナリ

一自分ハ更ニ社費ヲ出サス尤是迄組合中ヘ回文等ヲ出ストカ又ハ臨時ニハ自費ニテ出スヘキモノナレ共最早今日ニ至テハ社金ヲモ出スヘキモノナレハ別ニ會スルヲ要セス

一社ノ集會ハ毎月一度ナレ共臨時議スヘキモアリ時限ハ午前八時ヨリ出頭ニテ退散ハ定刻ナシ

一夜ハ折ニ演説會アリ臨時會ハ社長副社長ノ許可ヲ得テ聞クヲナリ

一自分日向ヘ行キタル音意ハ彼地ノ戦争盛ンニシテ止ムヘキ勢ナルニ然ルニ高知縣トハ僅カニ海一面ヲ隔テタル地方ナレハ万一我縣下ヲ蹂躙セラルヽモ計リ難キニ付実地目撃ノ為メ且ツ今般戦争ノ名義タルヤ西郷暗殺ノフヨリシテ起リタルノ由ニ付果シテ然テハ畢竟無名ノフナレ共別ニ名義モアルヤ又兵隊配賦ノ模様モ探偵ノ為メ出發シタルナリ尤其音意ハ片岡健吉ニ相談シタリ

一西郷ノ鹿児島ヲ発スルヤ賊トハ心得ス然ル処態本ニテ開戦ニ至リタルヲ見レハ別ニ不

得止ノ事情アルヿカトヽ存シ居タリ

一西郷始征討被仰出既ニ有栖川宮御出張ニモ相成其賊タルハ心得居タレ共元来西郷一人暗殺云ヽノヿヨリ起リタル戦争ナレハ西郷ニ於テ何ンソナスヘキノ理アラン其暗殺ヲ企タル人ヲ捕縛シ其裁判ヲ聞ク迄ニテ戦端ヲ開クニ至テハ今明ナルヿナレ共既ニ戦争ニ及ヒ朝廷ニ於テ討ツヘキノ理アルヤ又麁児島ノナス処理アリテ不得止ヿナルヤ果シテ其理ノアル処ヲ探偵スル心得ニテ日州ニ出タルナリ

一日州ニ至ル節ハ悪シキトハ心得ス出発シタレ共京都府ニテ御糺問ヲ受ケシ後ハ悔悟シ恐入タリ

一最初片岡健吉ヘ日州行ヲ謀リタル処片岡云フ今日ハ行クヘキ時ニ非ス併我輩人ニテ即チ蒼ハナシ難シ別ニ相談スヘキ人アルニ付明日マテ待テト其翌暁ニ至リ片岡云フ今彼地ニ至レハ彼レ必ス疑惑ヲ生シ如何ノ変モ難計唯空シク身命ヲ捨ルハナスヘキニ非ス今暫ク見合スヘシト依テ一旦相止メタリ

右ノ通相違無御座候也

明治十年七月二十五日

高知県士族

藤　好静　拇印

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

第貳号

明治十年七月二十日申立

高知縣士族　藤好靜

豫テ諸事相談スル一建吉ハ立志社長ナルニ付殊ニ今回征討ノ義モ其意見ヲ問セシ処建吉云フ故日向行ノ義モ其意ニ任スト依テ其言ニ随ヒ一旦止メタルニ相違ナシ

一大山綱良官位褫奪ヲ受ケシ後三浦介雄（高知縣人）ニテ（鹿児島縣権中属ナリ）高知縣ニ来リシニ丁アリ其時介雄云大坂ハ迚モイケヌ故当所ニ参リタリ誰ソ鹿児島ヘ同行アリタシ然ハ彼地ノ様子ヲ見セ遣ス可シト然ルニ高知縣人誰モ之ニ應セス因テ今日ニ至リテハ日州ヘ往クトモ三

浦モ引入マシキニ付往ク〳〵ヘキ時ニ非スト建吉ハ云ヒシテト思考セリ

一右ノ訳工〳〵前日往クヘキ時ヲ失ヒシトカ或ハ後日往クヘキ時トリト思ヒタルニアラス官員ナリト思ヒ居リシカ建吉カ日向行ヲ止メタル後七八日モ過キテ再ヒ彼地ヘ往カンテヲ相談セシ頃ハ池田應助ノ話ニ因テ介雄カ賊徒タルテヲ知リタリ

一介雄カ高知縣ヘ来リテノ談話ハ池田應助ヨリ自分ハ傳承セリ右介雄カ談話ハ今陰地ニ事ヲ起シ居ルニ付テハ高知ニテ共ニヤラサルニ其見込ヲ問ノ為メニ自分ヲ以テ逢ハセヤル為メニ彼ハ来リタリヌ誰ソ同行スルハアラハ彼地ノ模様ヲ見スベシ西郷桐野等ヘハ是マノ手続ヲ以テ逢ハセヤル可シト

一介雄カドウカ鹿児島ト共ニ事ヲヤロウジヤナイカト云ヒシニ高知ニテ共ニヤラサルニ付今日トナリテハ往クトモ彼レニテ入レマイト自分ニ於テハ思考セリテ申立タリ此義ニ高知縣ニテ御調ノ節ハ偽リ京都府ニ於テ再應恐入ル段上陳シ今日ハ已ニ悔悟シタルニ付少シモ偽リハ申上ヌナリ尤唯今共ニ事ヲヤロウジヤナイカト介雄カ云ヒシ云マハ全ク自分ノ失言ニテ恐入ルナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

一日向行ノ一ハ自分一己ニ往クナレハ何モ論
ナキ一ナレ共是非建吉カ許可ヲ得テハナラ
ヌニ付社長建吉ヘモ謀リシニ建吉云フ今一
人相談スヘキモノアリ其上決ス可シト苦ヘ
翌日ニ至リ往クヘキ時ニ非ラストト云フ
一建吉カ今日ハ往ク可キ時ニアラストト云ヒシ
ハ明治十年四月半過ヶ覚工其後七八日過キ
ニ自分日向ヘ往カンコトヲ再ヒ存立千建吉ニ
向テ云フ近日ハ彼ノ地ヨリ電信モ来ラス揉
子モ一向分カラヌ故是非日向ヘ往テハ如何
アラント建吉云然ラハ往キテモヨカルヘシ
併シ如何シテ入レヘキヤ今日トナリテハ迚
モ共ニヤルト云位ノ話ニテハ彼レニテ引受
マシト自分云我レヨリ反對ノ論ヲ起シ彼レ
西ト云フ時ハ我レ東ト云ハ、却テ彼ヨリ應
スルコトヽルヘシ若シ彼レ尚疑テ捕縛セハ致
方モナキコトナリト
一右ノ未往クコニ決定シ夫レヨリ出テ船ニ乗
リシハ明治十年五月三日ナリ
一日向行ノ趣意ハ西郷桐野等カ為ス所何ノ大
義名分ニ拠ルカ又此先キニ如何ノ目的ナル
カヲ問ヒ且ハ今日ニ至ルニ迫鎮定ニ至ラサル
ニ付彼地ノ景状ヲ目撃シ来ラレ為メナリ
右ニ通相違無御座候也

高知縣士族
藤好靜 印

明治十年七月廿五日

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

第三号

明治十年七月廿一日申立

高知縣士族　藤好静

一昨日モ申上ケタル通リ自分日州ニ赴キタル目的ハ決シテ餘ノ儀ニアラス何分賊軍ノ模様更ニ相分ラス西郷カ現場ノ事跡ニ就テ之ヲ論スル外ハ其賊タル固ヨリ辨ヲ待タス卜雖ニ他ニ如何ナル名義アルヤモ計リ難ク且日州ハ高知縣接近ノ土地ユヘ萬一彼ニ誘躡セラレンヲ恐レ實地ニ就テ彼ノ曲直及ヒ強弱ヲ探索スル為メナリ約シテ之ヲ云ヘハ彼ノ我縣下ヲ蹂躙センヲ恐ル、ナリ又彼ノ曲直ヲ聞知センカ為メナリ又彼ノ兵ノ強

弱ヲ見シカ為メナリ其三目的ノ他ナシ

一賊軍ノ強盛ニメ蹂躙スルヲ恐レタルニ非ス其衰弱シテ我縣下ヘ崩レ込コトヲ恐レタルナリ若シ崩レ込ムノ模様アラハ縣地防禦ノ備ヘナカルヘカラス是レ賊軍ノ強弱ヲ探索セシ所以ナリ

一民撰議院設立ノ建白ハ立志社ノ宿志ニ付此際ニ臨ミ速ニ右設立ノ儀ヲ申立テ自分共ハ西郷等ノ事實ヲ探知シ来リテ之ヲ民撰議院ノ衆議ニ質シ其曲直ヲ公判ニ致スノ積ヲリタリ

此儀ハ間違ナシ

一日州ニ出発スル迄ハ右申上ル通リノ目的ナリ然レトモ彼ノ地ニ至リ右様ノ談判ヲナシタルニアラス亦彼等ト何モ・契約ヲモ結ヒタルコトナシ

一何以テ日州ニ赴クコトヲ隠匿シ長崎ニ於テ唐筆墨ヲ買セ入ルヽ旨申立テ縣廳ヲ欺キタルヤ又何以テ海陸軍防禦線ヲ忍ヒ出テ賊ノ営中ニ立入リタルヤ又賊情ヲ知得タラハ何以テ速ニ之ヲ其筋ヘ届出テサルヤ此等ノ点ヨリ推スルハ是迄供述スル所ノ日州行ノ目的ト云ハ都テ其意ヲ得カタシ

一シ然ラサレハ右三點ヲ一ニ辨解スヘシトノ御詰問ヲ受ケ何分辨解出来難シ

一自分ヨリ日州行ヲ相談シタルハ片岡健吉ナリ自分云ク今日ニ右ニテハ彼ニ面會スルニ甚

難シ若シ面會スルヲ得ハ如何様ニモ談判
スヘシト片岡云如何ナル方便ヲ以テ談判ヲ
ナスヤト自分云西郷桐野等ニ向ヒ此度兵ヲ
擧ルニ何故ニ島津ト事ヲ共ニセサルヤ又擧
兵ノ始ヨリ何故ニ我縣ニハ一回ノ通知モセ
サルヤ我ヲ以テ與ニスルニ足ラサル
弱兵ト見棄タルヤ等ノ及對論ヲ以テ應接ス
ヘシ所詮彼ニ一味スル位ノ議論ニテハ行ハ
レマシト片岡云夫ハヨカロウト是ニ於テ日
州行ヲ決定シタリ其外ニ談セシ人ナシ
一自分日州ニ赴キタル八高知ニテモ兵ヲ擧ル
等ノ企アリテノコトニ非ス其證據ハ今日ニ至
ル迄高知縣ニ於テ兵ヲ擧ル等ノ事ナシ

一四月廿九日カ三十日カ日・ハ惱ニ覺ヘサレ
片岡建吉宅ニ於テ同人ト日州行ヲ相談セシ
節自分兵ニ村松政克兩人ニテ片岡ヨリ金百
圓ヲ借用セリ右ノ金ハ片岡ノ所有物カ立志
社ノ所有物カ心得ス尤右金ハ旧縣後返濟ニ
及ハスト口約束ナリ
一証書文面ハ惱ニ記憶セサレトモ大凡左ノ通
ナリ

假証文

一金百圓

右日州行ニ付借用スル所実正ナリ

片岡究

兩人連名

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

一右金ハ往還ノ旅費ニ充テ残金ヲ返却スル
積リナリ

一日州ヨリ歸縣セシハ五月二十四五日ノ頃ナ
リ捕縛セラレシハ六月十四日ナリ

一村松ト日州行ヲ相談セシ場所ハ村松ノ宅ニ
舎セシコトアリ又ハ自分ノ宅ニ舎セシコトアリ

其節別人ハ一人モ居合セタル者ナシ

一片岡ヨリ受取タル金ハ両人ニテ五十圓充懐
中セリ其後ハ一人ニテ一緒ニ持チタルコトモ
アリ又分チテ持チタルコトモアリ

一日州ニ至ル迄ノ費用ハ自分懐中セシ金ニテ
遣拂ヒ帰途ノ費用ハ村松懐中セシ金ニテ仕
拂ヘリ

一往還ノ入費ハ百圓ノ内一圓程残リタリ其金
ハ郷里ニ残シ置ケリ右残金ノ負数ハ村松宅
ニテ村松ノ話ニテ承知セリ其節村松右ノ残
金ニ自分ニ示シタリ

一往還入費ハ船賃何程ト大畧ノ勘定
書ヲ出ス積アリ尤モ一切手帳ヲ携フルコトハ
片岡ヨリ堅ク禁セラレシニ因リ明細書ヲ出
スニ及ハサルコトハ豫テ約束致シ置キタリ帰
縣後速ニ勘定ヲナス積ノ所片岡不在ニ付延
引セリ

一遣拂大畧ノ勘定ハ記憶セリ何時ニテモ認ム
ヘシ然レトモ明細書ヲ作ルコトハ出来カタシ

一船賃宿料等ハ受取書ヲ取リタリ右書付ハ風

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

呂敷ニ包ミ自分宅表ノ間ノ床ニ置キタリ風呂敷ハ村松ノ所持品ニテ色ハ相覚ヘス

一斯ル次第捕縛サレシニ至リシトキハ心付カス右ノ書類ハ疎畧ニ致シ置ケリ今日ニ至リテハ既ニ紛失セシヤ保証シ難シ若シ紛失セシトキハ上ヲ欺キタル次第ニ當リ恐縮ノ至ニ付念ノ為メ申上置ク次第ナリ

一総テノ遣捕ニ必ス受取書ヲ取リタルニアラス駕人足ノ如キハ通運會社ノ外受取書ヲ取リタルコトナシ通運會社ハ高知縣并ニ美津又ヒ美ニ津ノ先キニ二ケ所アリタリ美ニ津ニテ駕人足ヲ雇ヒシトキハ自分ノ實扈姓名ヲ名乗リ江代ニ赴ノ旨申聞ケタリ

右ノ通相違無御坐候也

明治十年七月廿五日

高知縣士族

藤好靜 拇印

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

第四号

明治十年七月廿三日申立

高知縣士族　藤好靜

一自分共日向ヘ出立前ト本縣ヘハ長崎表ヘ為商用九十日間旅行ヲ許ス旨四月三十日届書差出シタリ尤其届ハ自分認ノ區務所ヘ出ス可キ處即時間届ニ十リタルヲ以テ十リ

一自分日向行ノ儀ハ高知縣下浦戸湊ヨリ五月一日出帆ノ積リ十九處雨天ニ付當日延引同二日夕川蒸氣船（船浦戸湊ヨリ幡多下田ヘ廻漕ノ船ナリ）ニテ改克一同出船同一日午前五時頃下田ヘ着セリ尤片岡建吉ヘハ四月廿九日三十日頃金子受取リニ至リシ節當舍シタル近ニテ乗船前ノ別

ニ逢タルヿナシ

一右下田ヘ着夫ヨリ陸行シ志目地其節名不知（コスリモシノト跡ニテ聞ケリ）ト申者ト同道午後四時頃幡多ノコスクモ」ヘ着同日ハスクモ」旅店ヘ一泊其夜直ニ出船ノ積ナリシカ風波悪シク尚ホ四日五日モ同様ニ付滞在同六日ニ至リ風波静ナルニ付出帆ノ約ヲナシタレハ手違ニテ其船来ラス不得止漁船（此ハ珊瑚珠ヲ取ル船ナリ）ヲ雇ヒ乗出シタルカ折柄右昨日約束ノ船来リタルニ付直ニ乗替沖ノ島ヘ着尚又日向迫通船ノ儀ヲ舟子ヘ頼ミタレハ其頼ニ應セサルニ付上陸シテ沖ノ島ニ滞在一泊セリ但船賃ハ壹圓五拾銭ト覚ヘリ

一同八日朝漁船（船賃七回ヲ雇ヒ）沖ノ島出帆豊後佐伯ノ大島ヘ着セリ（此節ハ未タ改・府ヨリ船止メ等ノ布令ナシ）

一同九日右大島ノ内野村ト申ス処ヘ滞在セリ

一同十日漁船（舟賃七回ヲ雇ヒ）向島ノ浦（元延岡領ナリノ指テ出帆其夜舟中一泊セリ

一同十一日島ノ浦ヘ着直ニ上陸其節家名知レサル宅（後ハ幡弘兵衛ト申ス仁ニテ船ヲ聞ケリ）ニ一泊セリ

一同十二日島ノ浦ヨリ漁船（船賃共ニ酒一ヲ雇ヒ代共ニ貳円）一里餘ノ江川ヲ漕出帆日向延岡ヘ着夫ヨリ一里半上ケ延岡元城下ヘ着直ニ上陸シタルハ正午十二時頃ナリ夫ヨリ徒ク丁丸半町程ニシテ一ノ橋アリ此邊兵隊多數居タレハ自分等ヲ若答モセス依テ談所ニ至リ改克自

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

分両人ノ名札ヲ出シ戸長ニ面會シ自分共云
三浦介雄ニ面會致シタシト戸長云三浦介雄
ハ近日鹿児島ニ居ルトノ事ニテナレ共當節大戦
爭中ニ付迚モ往来ハ出来難シト於是自分等
此迫来リテ来リシ舟ハ既ニ還シタレハ今更陸
行シテ帰ルニモ能ハス進退維谷マリ依テ不
得止相野ヘ面會ノ儀ヲ頼ミタル処戸長云桐
野ハ江代本営ニ居ルニ付鹿児島人ニ逢テ相
談スヘシト依テ自分共ヨリ其間旋ヲ頼ミタ
ル処戸長直ニ下宿名知ヲ命セシニ付下宿
ニ至リ午飯ヲ喫シ居ル際巨長塚本某士族ト見ユ
モ来リ自分等當地ニ来リシ次第ヲ問フ自分
等荅三浦介雄ニ面會ノ為メ来リタリト其内鹿
児島人姓名知ラス使人位ト見受タリ来リ云本営ニ来ルヘ
シトノコトナリト即チ同人案内ニテ本営（延岡旧城）
下ノ頃ル大家ナリ。ヘ至リタル処薩人野村忍助接待セ
リ
一野村不審ノ様子ニテ問テ云何ノ子細アッテ
来ルヤト自分等荅云格別子細アルニ非ス三
浦介雄ニ面會ノ為メ来リタリト野村云介雄
ハ近日居処不分明ニ付案内スル能ハスト面
シテ大ニ自分等ヲ疑フ色アリ其内別ニ薩人
一人来リタレ共格別談話モセス尚又是非桐
野ヘ面會致シタシト申入ルレ共野村
何ニモ返荅セス唯戦ノ勝敗等ヲ談スル位ニ
テ取合ハサリシ

一暫クシテ野村云両三人ヲ付添駕籠ニテ差送ル ニ付江代本営ニ至リ桐野ニ面會アルヘシト然ル ニ夜既ニ十二時頃ナル故自分共云夜中ニテモヨロシキカト野・村云ヨロシト而シテ同モ十ク野村云明朝往ノヘシト依テ自分等下宿ニ帰リ着キタル処直ニ薩人両名来リ云先刻ノ事ニ付申落シタル廉アリ依テ御両人ノ内一人本営ニ参リ吳ヨト野村申入タリト乃チ改克相越シタル処野村并伊藤直次外ニ鹿児島人二人都合四人ニテ強テ江代行ヲ止メテ云高知縣ハ當時政府ノ嫌疑アルニ付足下方江代ニ至レハ其嫌疑益甚シク高知縣ノ迷惑ニナルヘシ且桐野モ果シテ江代ニ居ルヤ否モ不相分又自然桐・野當地ヘ来ルヤモ難計ニ付江代ニ往クヲ止メ先當所ニ滞在セヨト其伊藤ノ言辞全自分共ヲ探索人ト疑シ様子ニ付政克ヨリ決シテ迷惑ニハナラサルニ付其夜三時頃本営ニ至リタル処今晩ハ別ニ尋ル廉モナシト云ヒ誰モ来ラス広間ニテ夜ヲ明シタリ

一翌十三日午前八時頃自分共空腹ニナリタルニ付食事ヲ好ミタル処案内ノ上裏座敷ニ通

シ食ヲ出シタリ其調理ハ汁香ノ物ノミニテ
給仕ヲナシタルハ該家ノ婢ト見受ケタリ
一食畢テ野村ヘ面會ヲ請ヒ且ツ昨夜御深切ノ
忠告ニテ江代行ハ止ムヘキ筈ナレ共是非桐
野ヘハ面會シタルト申入レタル処稍一時間
モ過キ前夜ノ四名来リ是非江代ヘ行カント
ナレハ行ヘシ併シ駕籠ニテ通行ノ方然ルヘ
シ尤前夜ハ両三名付添ト申シタレ共竹田ノ
方ニ迫ニ出兵シ人少ニ付老人ヲ付添サスヘ
シトテ鹿児島人竹副某出向キタリ
一元下宿ヘ傘ヲ取落シタルニ付其傘ヲ取返シ
遣ス序ニ宿ノ支度代ヲ半圓遣シタリ
一無程傘モ来リタル二ヘ付添ノ者ト三人駕籠ニ
乗リ延岡出立同所新町（延岡ヨリ七八ノ本営
迄至リタル処同所ニモ兵隊多数ヤリ尤延岡
ノ兵隊竹田ニ出タルニ付新町ノ兵隊延岡ニ
繰リ込ノ際ニテ別ニ雑沓セリ夫ヨリ自分等
乗替ノ駕籠ヲ尋子タル処一挺モ之レナシ依
テ歩行ニテ美ニ津ニ至リ一泊セリ新町ヨリ
三里ト覚エ（延岡ヨリ七八ノ本営ト覚シキモノアリ）美ニ津ヘ
一十四日朝陰阻ナル山路ヲ越エ「ドガ」ト云処ニ
至リ日已ニ暮タルニ付假病院ノ側ニ小民家
ニ一泊セリ（美ニ津ヨリ「ドガ」ト覚エ）
一十五日「ドガ」ヲ出立湯山ト云処ニ至リ酒肆大
ナリニ一泊セリ「ドガ」ヨリ湯山迄
ナニ三里余ナリ
一十六日湯山出立午前八時頃江代（寺里半カ）ニ
里位ナリ

ニ着付添ノ竹副本営ノ民家ノ大ナルモヘ至リ桐
野ヘ申入タル様子ニテ見受タリ自分等案内ヲ受
ケ座敷ヘ通リタル処桐野并多喜某川野某外
ニ姓名知ラサル者一人都合三人ニテ應接セ
リ右本営ノ内外ニ惣人数十七八名位モ居合
タリト見受タリ
桐野始三人共平服ニテ無刀臺所ノ方ニ五六
人モ居リタレトモ戎器ヲ持セス又帶刀ハセヌ
様子ニ見受タリ其庭間ヲ歩ルキ居ル下等ノ
人物ハ帶刀シ居タリ
一桐野ニ面會自分共ヨリ先ツ数日戦争ノ労ヲ
慰シ而シテ云フ此度師ヲ御始相成タルニ何
故高知縣ニハ御通知無之ヤ窺メテ高知縣ハ
弱兵ニテ取ルニ足ラスト御見捨テアルカ桐
野云決テ左ニ非ス鹿児島出立前既ニ諸縣ヘ
十八名使ヲ出シ貴縣ヘモ両人差向ケタル処
途中ニテ縛セラレタルニ趣近日ニ至リ始テ分
リタリ其節右捕縛ノヲ
通達スヘキ処最早事既往ニ属シ其都合ニモ
至リ難キ次第ナリト自分云夫ハ残念ナルテ
ナリ併御話ニ依レハ御通知ノアリタルテハ
始テ分リタルナリト
一桐野等ヘ初對面ノ節直チニ師ヲ趣スニ何ヲ
以テ高知縣ニ通知セサルヤト迫リタルハ數
カテ棒ノ様ナルテニテ突然ノ詰問ナリト御
尋ニ候処右ニ其迫ル前ニ少シ申入タルテア

リ其言タルヤ豫テ征韓ノ論不協ヨリ貴縣ト
高知縣トハ御互ニ引込ミ兩未懇切ノ間柄ナル
ニ此度師ヲ御起シ被成云々ト申入レナリ
一征韓論ノ時引取タルハ板垣片岡北村山
路等ニテ其主志社ヲ結ビタルハ右五人ノ者
等協議シタルナリ
一桐野ニ迫ルニ高知縣ヘハ何以テ通知セサル
ヤト云シヲ高知縣ト高知縣廳ヘ通報ノ
ヲ云シニ非ス高知縣下各社ヘ通報ノ心持ナ
リ若シ改府ヨリ立置シタル縣廳ヘ通知シメ
ル時ハ其使ハ賊ナルニ付直チニ捕縛スルハ
當然ノコト思考ス
右之通相違無御座候也

明治十年七月廿七日

高知縣士族
藤好靜 拇印

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

第五号

明治十年七月廿五日申立

一 高知縣士族　藤好靜

一 三浦介雄ノ父名ハ則優ト云ヘルヤ沖ノ島ニ住居セリ自分該島ニ至リ三浦家ヲ訪ヒ自分等今般日刈ニ赴クニ付介雄君ニ用事モアレハ傳言スヘキ旨申入シ所則優云先方ハ戰地ノ工ヘ色々ノ事ハ申越サス唯宿元ノ無事ヲ報スル迄ノ書面ヲ遣ス可シト而シテ一通ノ書翰ヲ自分ニ託セリ則優ハ初對面ニ有之且老人ノ上ニ工ヘ自分ヨリハ別段何モ談判致サス尤介雄カ高知ニ來リシ時自分ハ面會セサリシ事等申聞ケタリ

一三浦ノ宅ニテハ自分ハ草鞋ガケノ一ユヘ座
敷ニハ上ラス玄関ニ於テ對話セリ然ル処朝
九時頃ニ及ヒ追ヒ空腹ニ十リタルニ島中飲
食店無之ニ付則優ニ乞フテ喫飯シタレハ別
段馳走等ヲ受ケス午後戸長宅ニ至リ其夜一
泊翌日該島ヲ出帆セリ

一桐野ニ面會ノ節同人ヨリ三浦介雄ガ高知ニ
至リシ時ノ探索書ヲ示セリ是ハ介雄カ高知
縣ニ至リテ鹿児島ニ帰リシ後別人ニ高知縣
ノ事状ヲ告ケ其別人カ聞取リタル書附ニテ
之ヲ桐野ニ送リタルモノヽ由
一右探索書中ニ左ノ事件ヲ載セタリ
一板垣專ラ兵ヲ集メ其人数凡三千許ナル事

一高知縣ノ黨派元ト三ニ分レタレハ自今ハ
一ニ帰シタル事
一五月中旬ニ高知縣ヨリ撃テ出テ有栖川宮
ノ本営ヲ衝突スルノ目的ナル事
一元司法省三等出仕ノ人島本ノ拘引ニナリ
シ事
一高知縣ニ於テ小銃ヲ同旋シ近日手ニ入ル
ヘキ事
右ノ外数多ノ條件アリタレトモ相覚ヘス尤餘
程長文ナリ
桐野ニ向ヒ板垣ガ兵ヲ集メ官軍ノ本営ヲ衝
突スル等ノ企ハ決メ無之旨辨解致セシ所桐
野ハ自分ノ言ヲ信セスシテ偏ニ介雄ノ書面

太政官
太政官

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

ヲ信用セシ様子ナリ桐野云君ハ知ルマイケレドモ十日程以前川路カ戦地ヲ立去リタル事ニ付テ考レハ必ス高知ニテ既ニ兵ヲ興セシナラン然ラサレハ庄内ニ事アルヘシト

一自分云今般板垣岸兵ノ事ヲ以テ攻ニ実事トスルハ御方ニテ戦争ノ目的ハ如何ト桐野云先ツ延岡ニ在ノ兵ヲ豊後ニ操出シ進テ豊前筑前筑後ニ推シ懸クレハ佐賀其外必ス應スル者アルヘシ夫ヨリ長崎ニ至リ暫ク兵ヲ纏メ軍艦ヲ外国ヨリ購求シ而後長崎ヨリ軍鑑ヲ發シ直チニ馬関ヲ衝カン其時官軍全カヲ盡シテ防戦スヘシ此ノ一戦ヲ彼我勝敗ノ結局ト見込メリ

一自分云鹿児島戦争ノ摸様ハ如何ト桐野云同所ハ元ヨリ捨置キタルナレハ営時ノ兵ヲ分遣スル積ナリト

一桐野云弥高知ニテ兵ヲ挙ルノ積リナラハ我軍勢豊後ヲ通行スル折責縣ノ兵ハ佐賀ノ関ヲ渡リ相合スヘシ彼ノ地ハ高知ト相距ル僅ニ五六里ニシテ大ニ便ナリト自分云右様ノ事ハ事機ニ應スヘシ我カ兵九州ニ渡ルカ渡ラサルハ預定致シカタシト桐野云夫ハ御勝手次第ナリ併シ軽忽ニ兵ヲ擧ケテ大事ヲ誤ル丁勿レ確乎タル見込ヲ立テ而シテ後ニ事ヲ

一桐野云海軍ヲ防禦スル為メ宮崎ニ於テ大砲

ヲ鑄造スルト

一自分ヨリ彼ノ弾薬ノ員数ヲ問桐野答云右ハ甚タ闕之ヒリ然レ現場差支ナシト其餘雑話中熊本戦争ノ事杯兼リタリ

一自分云今般師ヲ始メテラレタル原由ハ何事ナルヤ桐野云西郷ヲ暗殺セントスル者アルカ故ナリ其顛末ハ斯クノ如シトテ一冊ノ口供ヲ示シ語テ云右口供ハ全ク苛酷ノ拷問ヲ以テ強テ之ヲ取リタルニ非ス且其確タル証拠ハ何某（姓名失ト申者偽テ中原等ノ黨ニ入リ中原等ノ隠謀ヲ探リ得タル者アリ此者ハ後日ノ証拠ニナルヘキ大事ノ者故嚴重ニ守衛シテ現ニ本営ニ差置戦地ニテ遣ハサストト右ノ何某ヲ戦地ニテ遣ハサス訳ハ中原尚雄等ヲ鹿児島ノ牢ニ入置キシ処勅使下向ノ時ニ中原等ヲ連レ帰ラレ暗殺ノ確証ヲ奪ヒ取ラレシヲ以テナリ

一自分云挙兵ノ名義ハ暗殺ノ一事ナルヤ桐野云其餘ニ名義ナシト依テ自分心中ニ以為ク夫ニテハ名義相立タスト併シ之ヲ口外ニ発セハ禍ヒ罹レフヲ恐レ只左様デ御座ルカト若ハ且最早帰縣シテ然ルヘキヤト尋子シ処桐野云左様ナラハ御帰リアルヘシ我ニ挙兵ノ名義ハ右ノ通又将来ノ見込ハ過刻談話セシ通ナリト

一桐野問高知縣ノ兵数ハ何程アルヤト自分答

太政官 修史館

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

云當時別段ニ兵隊ト申シテハ無ケレドモ立志社ニ於テ若干ノ兵ヲ得ヘシ然レドモ社員一同民権家ナルニ因リ無名ノ戦ハナス間敷ト傍ニ一ノ薩人アリ云リレドハ見込合ハズト自分云到底見込合ハサレド帰縣シテ成丈盡力スヘシト

一自分桐野ニ應接ノ次第ヲ約言スレハ高知ニ於テ固ヨリ事ヲ共ニスヘキ筈ナレドモ兵器弾藥ノ備ナキニ付何分其義覚束ナク併シ帰縣ノ上自分丈ハ精ニ盡カスヘシトノ趣旨ナリ

一最初桐野ニ面會セシ時自分ヨリ桐野ニ迫テ云兵ヲ挙ルニ何故ニ我縣ニ通知セサルヤ我縣ヲ見棄タルヤト桐野云ヒケル様ニ早ク兵ヲ挙ケサルヤノ語ヲ発セシハ我等両人ヲ以テ桐野等同盟中ノ者ト思ヒタルナルヘシ然レドモ自分共ハ決メ彼ト同盟中ノ者ニアラス亦极垣等ノ内命ヲ受ケタルニアラス只自己ノ意見ヲ以テ彼地ニ赴キタルナリ

一自分等ハ立志社ノ命ヲ受ケ桐野ニ使セシニ非ス又自分等ハ桐野ト初面識ナリト申ニ非ス桐野ニ面會ノ節兵ヲ挙ルニ何故我縣ニハ通知ナキヤ我縣ヲ見捨タルヤト詰問セシハ不審ナリ右何故通知セサルヤノ語ハ前以テ盟約アルニ非サレハ突然発スヘキ話ニ非ス桐

野ニ於テモ亦初對面ノ人此語ヲ発スルヲ聞カハ大ニ訝カラサルヲ得サルヘシ其辨解如何又延岡ニ於テ桐野ニ面會ヲ請ヒシトキ自分等両人丈ノ意見有テ桐野ニ面會致シ度決テ立志社ヨリ參リタルモノニ非スト申入タリト然ルニ最初ハ賊等丈ニ疑惑ヲ抱キシカ少時ニシテ其疑惑モ解ケ桐野ニ面會ヲ許シ殊ニ初ハ付添人三名ヲ付テ江代本営ニ送ルヘシト云ヒタルニ其附添人モ減シテ一名トナシ容易ニ江代ニ通行セシメタリ抑賊ニ於テ探索若ヲ警戒スルハ勿論ナルヘキニ右申入ノ口上丈ニテ賊等之ヲ許シ桐野ニ面會セシムルノ理ナシ其辨解如何又桐野ニ面會シ只彼等前途ノ目的ト彼等ノ事情ヲ聞シノミニテ然ラハ飯牟禮縣シテ然ルヘキヤト云ヒ桐野亦左様ナラハ御帰ナサレト答タリトハ児戯ノ如キ應接ニテ自分共ハ只賊等カ兵ヲ挙タルヲ警メニ往タモ同様ナリ然レハ桐野等ニ於テ此両人ハ必ス探索者ニ相違ナシト見ルヘシ決テ夫ナリニ帰スヘキノ道理ナシ其辨解如何トモ辨解出来カタメシ尚熟考ノ上明日申上クヘシ

右之通相違無御座候

高知縣士族　藤好靜　㊞

明治十年八月一日

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

第六号

明治十年七月廿六日申立

高知縣士族　藤好静

一昨日御詰問ノ三ヶ条ヲ昨夜モ熟考スレ共何分其辨解ハ出来サル十ル
一桐野ト面話ノ時別ニ彼ヨリ我ニ立志社中方向結局如何ト問ヒシヿナク又自分ハ立志社ノ使ニ非サレハ彼ニ其詳細ヲ談シタルヿナシ
一最初高知縣ニ於テ日州行ノ事ヲ相談セシハ建吉ノ外ニ池田應助一人アリ應助ハ其時自分ヘ行カヨシト云ヒ又彼地ヘ通行ノ路筋ヲ三浦介雄カ示シ置タルト云テ應助ヨリ自分ニ

示セシコトアリ

一自分共ハ素ヨリ立志社員ナルヲ以テ諸事社長ノ命ニ随フコトナリ乃チ日列行モ社長建吉ノ許諾ヲ得テ往キシニ相違ナシ

一前段ノ次第ナレハ即チ立志社ノ使ヲ為シタルト可シトノ御詰問ヲ受ケ何分其辨解ハ出来サルナリ

一江代ノ本営ニ於テ桐野ヘ面話セシハ只一度ナリ右ハ明治十年五月十六日ト覚フ其面話ノ時間ハ午前八時頃ヨリ午後三時頃ニ及ヘリ其間一飯ノ振舞ヲ受ケシノミ別ニ餐應ナシ

一右五月十六日別ヲ桐野等ニ告ケ相野云軽挙スルナカレ器械弾薬充足ノ後事ヲ始メラレヨ随分御手厚ノ被成ヘシトノ夫ヨリ自分等江代出立帰途ニ就ク同行ハ自分共両人ト附添竹副某并ニ道案内者一人都合四人四里計リニシテ日暮レ人家四五軒アル山村（村名不覚）ニ一泊ス

一同五月十七日暁天出立十三里ニテ日向（地名）ニ着同所神職（氏名不覚）ノ宅ヘ一泊

一同十八日暁霧又十二三里計リニシテ美々津ヘ着町家ニ休憩同處ニテ竹副某ノ周旋ヲ以テ船ヲ雇ヒ薄暮美々津出帆又船賃三十圓余ト覚フ此地ニモ賊徒ノ営アリ

一同二十日船中ニアリ

一同廿一日カ二日カ島ノ浦（地名）向ニ着シ其夜舟中

太政官
正院

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

一泊拂暁島ノ浦出帆

一同廿二日カ廿三日カ高知縣幡多郡天地ニ着
キ一泊

一同廿三日カ廿四日カ同所出立中村ヘ一泊

一同廿四日カ廿五日カ中村出立柿ノ木ニ一泊

一同廿五日カ六日カニ高知縣私宅ニ皈着已ニ
夜ニ入リタリ

一其節建吉ハ建白ノ為メ西京ニ至リ不在ナ
リ

一同廿七日カ板垣退助ヲ訪ニ然ルニ将ニ客来
アラントスル趣ニテ面會シガタシトノ事ニテ
付立還ラントスル際暫時逢フヘシトノ事故
引返シ面接セシ處直ク二客人入来ス板垣去
ヲ委細ノ事ハ他日承ルヘシトノ事ニ依テ自分ハ皈
リタリ

一右客ハ北村長兵衛谷平次ナリ長兵衛ハ元陸
軍中佐ヲ勤メタルモノニテ當今非役ナリ

一片岡建吉不在ナル故日別行ノ事ヲ板垣ニ咄
サンカ為参リタリ

一同廿八日カ廿九日カニ谷平次ヨリ自分共宛
ノ書翰来リタリ之ヲ披見スルニ面會致シ度
トノ旨趣ナリ

一同日十二時頃自分政克ト両人立志社ニ至リ
タル処谷平次池田應助山田平左衛門岩崎小
吉云何レ此處ニテハ不都合ナルヲ以テ午後一時頃ヨリ開成
ヘ往キ談話スヘシトテ

館ニ集合セリ（此館ハ原ト山内旧知事ノ管轄ナリシヲ立志社手狭ニ付一時同社ニテ借受居タルカ目今ハ又旧知事ヘ返済ニナリ居メシニ空館ニナリタリ）ニ相談シテ借ル

一右館ニ於テ谷干次始自分共迄六人環坐シ自分共云フ現今日向地方ハ盛ンニ戦争ヲ為シ居ルナレハ我立志社モ黙止スヘキノ時ニアラス社中ノ方向ヲ定メテ尽力スヘシト谷等云フ今兵ヲ挙クルハ無名ニ属ス決シテ西南ノ事件ニ関渉シテ軽挙ヲ為ス可カラス ト議遂ニ協ハスシテ午後四時頃其場ヲ退散セリ

一右退散ノ帰路自分ト改克ト相語テ云我ニハ日向迄モ往キ盡力スルニ彼等ハ因循説ヲ立

ル故迚モ相手ニナラヌ以後応助杯トハ共ニ事ヲ談スマシト

一同五月三十日豫テ懇意ノ野崎正朝来原之成弘田仲武ノ三名来訪ニ付一同改克宅ニ會シ自分等ヨリ一應日州ノ事情ヲ談ニ且ツ云昨日ハ副社長谷干次其外ヘ相談及ヒタル処議論相合ハス自分共ニ於テハ立志社ノ方向一切相分ラス今日ニ在テハ実ニ民権擴張ノ時ニシテ黙ニ経過スヘキ時ニアラサルニ付従是ヲ下等ト同心協力シテ吾社ノ目的ヲ定メント野崎等即千同意セリ其後モ折ニ右五名ハ事ヲ議シタリ

一明治十年六月一日カ二日カ三菱會社ノ汽

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

船平安丸高知縣ニ着北村長兵衛乗込来リ陸軍省ヨリ銃砲弾薬ヲ御買揚ニナルトノコトニ付弾薬等ハ渡スヘキ旨ノ議論起リタリトノ風説アリ依テ自分等以為ク今建吉ハ建白書ヲ齎シテ西京ニ至リシ跡ナルニ銃器弾薬ヲ渡スハ不宜ト依テ自分等ハ林有造宅ニ往キ其義談論ニ及ヒシ処有造云フ障薬御買揚ナルトモ敢テ関スヘカラス決シテ軽挙暴動ヲ為スヘカラストノ同六日十日頃三菱ノ汽船名買又来リ依テ木議官秉正ニ居残餘ノ弾薬都テ御買揚ニナル趣ナリ右ニ付縣下騒擾中自分ハ同六月十四日カ十五日カニ捕縛セラレ右船ニテ西京ヘ護送セラレタリ

一板垣ニ面會セシトキハ我ヒ日州ニ往キタリ又桐野ニ逢フタリト云フ返答ニテ帰リタリ

一右面會ノ時板垣ハ平日ノ色ナシ

一板垣ハ立志社員ニ相違ナシ

一西郷桐野等ノ反賊タルハ已ニ御布告アリ自分等ハ遙ク承知セシト雖為ハ全國ノ安寧ヲ妨害シ三千萬余ノ人民ニ波及セシムルノ一大事件ナルヲ以テ朝廷深ク之ヲ憂慮セラレ征討ノ令ヲ降シ官軍既ニ戦闘線ヲ定メシナリ此際賊地ニ入リ賊徒ト面話スルハ自分等ニ於テ不可為ノ事ナリ

ト承知シ居タルヘシ如何ニ對シテハ賤地ニ行クヲ深ク隠匿シ唐津墨商業ノ為メ長崎ニ往クト偽リシニ非ラスヤ然レハ元参議ヲモ勤メ今尚ホ四位ヲ辱スル板垣ニ對シテモ不可為メ日州行ノ事ハ縣廳同様ニ惮カラサルヲ得サルニ同人ニ對シテハ一番ニ其ヲ告ンカ為推参シ板垣モ亦警愕ノ色ナキトノコトナレハ日州行ノ事ハ立志社中板垣始メ其外ノ者ニ於テ関係ナキト一ノ申分ハ前後不揃ノ申分ナリト御詰問ヲ受ケ一切辨解ハ出来サルナリ弾薬御買揚ノ風聞一明治十年六月二日三日頃弾アリシヤ自分等林有造ノ宅ニ往キ彼是談話ノ後有造ニヲ拙者岩神昴ヨリ承ルニ近来京摂間ニ暗殺ヲ企居ルモノアリ右昴モ五六名アリ其中ニ加ハリ居ル由此事ハ決テ他言無用ナリト

右之通相違無御座候

高知縣士族

明治十年八月一日

藤好静拇印

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

第七号

明治十年七月廿七日申立

高知縣士族　藤　好　静

一自分儀日向ヨリ畝縣後板垣ニ面會ノ為同人宅ニ参リタルニ付板垣モ自分等ノ同服ノ様ニ見エシニ決テ然ラス尤是迄ハ自分等丈ノ見込ニテ日向ヘ参リタリト申上タレニ右ハ間違ナリ自分等ハ建吉ノ命ヲ受ケ立志社ヨリ参リタルニ相違ナシ

右ニ通相違無御座候

明治十年八月一日

高知縣士族

藤　好　静　拇印

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

第八号

明治十年七月廿八日申立

高知縣士族　藤好靜

一明治十年七月二日京都府ニ於テ十シタル口供中ニ不條理ノ御指令ニテ御採用無之時ハ兵力ヲ以テ政府ニ迫リ候迄ニモ致度ノ見込云ニハ自分等ニ於テ明治八年四月十四日ノ勅書ヲ奉戴シ民撰議院設立ノ儀ヲ幾度モ建言シ政府ニ於テ條理ヲ以テ御指令アレハ勿論相迫リ申スヘキ儀ニ之ナク自然靡制ヲ以テ不條理ノ御指令アレハ其節ハ最早不得止斃レテ止ムノ期ニ付是非兵力ヲ以テ政府ニ迫ルノ心得ナリ

一京都府ニ於ニ為シタル口供中四月廿九日ヵ三十
日建吉宅ヘ参リ今日ハ是非日向地ヘ可参云ニ
然ハ出發盡カスヘシ此方ハ縣下ニ於テ盡力致
スヘク由（兵ヲ募リ弾藥ヲ蓄ル相企云ニトアル
ノ二ツト汲取假）蓄ルノ了ハ其節建吉
ノ言辞ニ出タル訳ニ無之自分ハ日向表賊情
探偵ノ為メニ参ルニ付離別ノ際ノ言葉ナル
故建吉カ盡力スルト云ヒシハ定テ募兵弾藥
等ノ了ナルヘシト自今ニ於テ想像シタルニ
付汲取タリト申供シタル処ナリ然ルニ其想像
ノ起ル原因ハルヘシ何事ニモセヨ原因ナク
シテ想像ノ起ル譯ハナキモノナリトノ御詰
問ニ對シテハ辨解出来サルナリ

一京都府ニテノ口供中ニ尚先達テ三浦介雄ヨ
リ日向路ノ道筋案内書ヲ池田應助ヘ渡置候
由ニテ云ニトアルハ全ク其書付ヲ應助ヨリ
一見シタル迄ニテ何等ノ次第ニテ介雄ヨリ
應助ヘ渡シタルヤ其所以ハ自分承知セス唯
其書面中大島ニ至レハ野村孝太郎ニ周旋ヲ依
頼スヘシ又豊後佐賀ノ関ニ至レハ何某方ニ至
ルヘシ又日向路ノ了ハ延岡ニテ區務所ニ至レ
ハ委細分ルヘシトアル位ノ事ニテ自分等日向
行ノ節ハ其案内書通ニシテ参リタリ

一京都府ニテノ口供中開成館ニ於ニ谷平次池田
應助岩崎小吉山田平左衛門ヘ戦地ノ實況陳
辨スルニ云ニ四人論スル処前日ノ方向ト及對

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

イタシ云ニトアル八抑是迫社中ノ契約ハ何事
モ一致協力ヲ目的トスル旨意ナルニ當時ニ至
リ四人ノ論スル処今日廉児島ノ主ス処ヲ見レ
八大義名分ナキニ付決シテ雷同スヘカラス此
上八一己一己ノ方向ヲ定ムルヘシトノ口ナル故
前日ノ一致協力ノ方向トハ反對致シタリト申
タルコトニテ決シテ前日ニ於テ賊ニ應援スル等
ノコトヲ約定シタルコトアリテ其前日ノ方向ト反
對シタリト云ヒシコトニ非ス尤右様ノ議論ニ付
自分ニ於テハ當今ノ際決シテ社中ニテ黙視ス
ル時ニ非ス何レ改府ヘ建言ヲナストカ社員一
同ノ目的ヲ定メサレハナラサル旨發論シタル
事ナリ

右之通相違無御座候

高知縣士族

藤好靜 拇印

明治十年八月一日

第九号

明治十年八月一日申立

高知縣士族　藤好静

一自分儀今般ノ次第ハ片岡健吉谷平次等ノ指揮ヲ受ケ事ヲ謀リタルニアラスト雖モ既ニ京都府ニ於テモ屡々御糺問アリタレ共更ニ陳述セス然ルヲ今日ニ至リ其實ヲ吐露スルハ如何ナレ共過日来追々御訊問ノ趣ニ因テ考レハ今更言ヲ飾ルハ不本意ニ付十分開申スヘシ其次第ハ是迄モ國事犯ノ徒ニテ處刑ヲ受ケシ者モ往々アリタレ共何レノ犯者ニテモ必ス其巨魁アリテ然ル而メ其官ノ審糺ヲ受ル場合ニ及テハ多クハ己レ一人罪ヲ蔽ハン為メ

遂ニ人ノ罪ヲ讒スルノ徒アリ今好靜ニ於テハ決テ然ラス其是迄包藏セシ所以ノモノハ思フニ建吉等モ當今自分共ノ成行ヲ追ニ承知シタル上ハ必ス前非ヲ悔悟シ居ルヿト存スルニ付之レヲ一身ニ擔當シタレハ実ハ日州行ニ至テハ全ク建吉應助ト謀議シ其出立ノ際互ニ約スルニ自分共ハ西行シテ存分事ヲナスヘク足下等ハ縣地ニ於テ盡力スヘシト云タル處建吉等云フ何レ彼ノ地ニ至レハ先方必疑惑ヲ懐クヘシ如何處置スルヤト申スニ付夫レハ臨機ナスヘキ事ヲアルヘシト供ニ尋常ノ口ニテハ行ハレ間敷ニ付先第一鹿児島縣ト高知縣ハ兼テ懇切ノ別ナルニ其出立ニ臨ミ一應ノ掛合ナキハ如何ト桐野ニ詰問シ夫ヨリ順次談判ヲ遂ルヲ以テ得策トナスヘシト申合セ出立シタルヿニテ全ク建吉ノ許諾ヲ受ケシニ相違之レナシ

右之通相違無御座候

高知縣士族

藤好靜拇印

明治十年八月三日

太政官
熊本縣庁

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

第拾号

明治十年八月三日申立

高知縣士族　藤好静

一自分日州へ出立ノ前日村松政克同道片岡建吉宅ヲ訪ヒ夫ヨリ尚又建吉政克同伴立志社ニ至リ建吉ハ出勤スル付平素出社スル政克ハ社員ニ非サルニ付キ自分ハ今般ハ日州行ニ付本社へハ暫ク見合セ居ル旨ヲ告ケ且ツ同道シタル処池田應助居合セタルニ付自分云今般建吉ト協議ノ上実地目撃ノ為メ日州へ参ル心得ニテ明日出立致スヘキニ付明日出立ノ話ヲ承リタキ旨ヲ告ケ且ツ應助云日州行ハ話ヲ承リタキニ付明日出立前私宅へ来ルヘシト依テ翌朝出立ノ朝即チ四月三十日ニ應助宅へ改メ克一同立寄リ自分云昨日申述タル日州行ハ他ニ非ス何分戦地ノ景

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

況分明ナラサルニ依リ西郷等ノ為ス處名義
アルヤ否又賊兵ノ為メ我縣下ヲ蹂躙セラル
モ難計ニ付右等目撃ノ為メ参ルナリト建
吉云夫レハヨカルヘシ併シ疑カワレテ殺サ
レル様ノ事共アレハケンノンノフナレ共自
分ハ敢テ止メモセス勧メモセサルニ付此書
付ヲ持参スヘシト申シ渡サレタリ右書面ハ過日介雄帰
縣ノ節ノコシヲキタル日向路案内書アリ其レハ改克而
人出立ノ時應助ヨリ一様見セ然シ其節區務所ヘ商
法ニテ長崎ヘ往クトノ詐偽ノ届ヲナス等ノフハ池田ヘハ談話セス
一右應助ヘ談話セシ節應助云日向ニ至ルモ桐
野ニ面會ハ覚束ナク存スルナレ共自分ハ其
是非ハ敢テ論セス尤モ先彼地ニ至レハ三浦

方ヲ訪フヘシト右ノ都合ニテ應助ハ別段止
メモセス又其氣色平生ニ異ナサルニ付自
分等ノ旨意ト同意ナルヘシト推考セリ
一時宜ニ寄リ賊兵高知縣下ヘ蹂躙スルモ不
被計等ノ事ニ付実地目撃ノ為メ出発スルハ
殊ニ非常ノ儀ニテ素ヨリ自分等一命モ期シ
難キ位ニ降ナルニ同社負ノ應助ニ於テ其話
ヲ聞キ更ニ平生ニ異ナル氣色モアラサリシ
トハ人情ニ於テ有ルヘキコトニテ不審ノ至
リナリト御糺問アルモ應助ノ意中ハ自分ニ
於テ計リ難シ
一應助ノ為人ハ漠然ナルヤト御尋アレ共決テ
漠然タル人ニ非ス但シ其自分ノ日州行ヲ異

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

マサルハ何ニモ不審ノ
助ニ代リテ他人ヨリ右様ノ談ヲ聞タルトテ
モ素ヨリ人ノナスコト故敢
得ナリ
一應助ハ漠然タル人ニ非サレハ現在同社員カ
危險ノ場合ニ臨ミ禁令ヲ犯シテ賊地ニ入ル
コト止メサルノミナラス其危嶮ナル道路ノ導
キ迄モナシタルハ餘理ニ於テモ人情ニ於テ
モ不可有コトニテ不審至極ナリト御糺問アル
ニ決シテ應助ハ始ヨリ謀議等シタルコトナ
ク出立前日初テ日向行ノ事ヲ咄シ且ツ當朝
書付ヲ見タル迄ノコトニ付別ニ辨解ハナシ難
シ

一自分日州ニ至レハ賊ヨリ疑ヲ受ケ捕縛セラ
ルヽヤ或ハ殺サレルモ計ラレス至極危險ナ
リト應助申シタルハ相違ナシ
一應助ノ云フ疑シテ云々トハ官軍方ノ者ト疑
カハレテ捕縛サレテハ又矢張賊軍同意
ノ者ナルニ依リ其通リニ信セラレテ容レラ
レヨト云意ニナル疑ハレノ字ナルヘシト御
尋問アレニ自分ニ於テハ其辨解ハ出来サル
ナリ
一介雄カ高知縣ニ来リタル所以ハ委敷承知セ
サレニ鹿児島ヨリ探索ノ為メ来リタル様子
ナリ尤介雄ハ誰ヨリ命ヲ受テ来リタルヤ否
ヤハ知ラサレニ最初大坂ヘ行ヘキヲ大坂ニ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

至ラスシテ直ニ高知縣ニ来リタリト聞ケリ
一介雄ハ高知縣ニ至リテ暴挙ヲナスヘキ約束
等ヲナシタルヿハ承知セス又高知縣下ニテ
應セサルヿタル者モナシ尤介雄カ誰レヲ戦地ニ至
ラスカト申シタリトハ聞ケリ
一日州ニ至リ桐野ニ説クニ先鹿児島ト高知ト
ハ豫テ懇切ノ間ナルニ挙兵御通知ナキ如何
云ヒヨリシテ順次談論スルハ全ク一時ノ権
道策略ニ出ルモノナリト申立レヒ決テ権道
策略ニ非ス矢張賊ニ内應スルノ協議一決ノ
上日向ニ至リタルハ只今自分ノ申立ル應助
并介雄ノ事ニ付テモ分明ナリ何ントナレハ
介雄ノ高知縣ニ来リシ節應助ハ介雄カ賊タ
ル事ハ飽マテ承知致シナカラ之ヲ容隠シテ
更ニ縣廳ヘ届モセス又自分政克両人ノ日州
行死生問ノ危キヲ踰テ出発スルニ應助ハ敢
テ驚ク色ナク剰ヘ其賊タル介雄カ渡シ置タ
ル賊地案内書ヲ渡シタリ又自分等カ延岡ヨ
リ江代ニ至ルノ途中始メハ賊ヨリ付添三人
ヲ付ルトノヿナリシカ忽チ減シテ一人ノ付
添ニナシタル等ノ事ヨリ推セハ賊ト同意内
應ノ証佐符節ヲ合スルカ如シトノ御糺問ニ
對シテハ何分辞解出来サルナリ
右之通相違無御座候
高知縣士族
藤 好静 拇印
明治十年八月十五日

第拾壱号

明治十年八月廿八日申立

高知縣士族　藤好靜

一六月三日頃神田屋所持ノ弾藥御買上ノ趣承知セシニ付自分林有造ニ談シテ云出弾藥ハ必用ノ物ナレハ差出ス譯ナシト林云如何ナル譯ヤリテモ留メ置クヘキ筋ナシ之カ為メニ決シテ暴動スルヿハナラメト是ニ於テ自分モ其道理ヲ一時了解メ別ニ議論ヲ發セサリシナリ

一右弾藥ヲ差留ントス企テ主意ハ京都府ニ於テナシタルヿ供ノ通相違ナシ即チ自分ハ兵拳ルノ目的ニテ林ニ相談セリ併シ他ニ同

謀者ナシ只自分一己ノ目的ナリシナリ

一右證藥一條ニ付自分村松両人林ニ面會ノ節林云京都カ大阪カハ知ラサレ共暗殺ヲ謀ル者五六名カ七八名アルヤウ岩神ヨリ聞ケリト

一林ハ岩神昂モ同謀ナリト語リタル様記憶セリ此事ニ付京都府ニ於テ村松ト御突合ハセ有之村松ハ岩神カ同謀ナルカ否ハ慥ニ聞カスト申上タリ自分ハ同謀ト聞キシ様ニ覺ヘタレ共確ト記憶セサル旨申上ケタリ

一林ヨリ岩神ニ向ヒ暗殺ノ如キ見苦シキヤハ止メテ立派ナルヤウ企テヨト語リタル由自分之レヲ林ヨリ承知セリ. 岩神カ暗殺ノ同謀者ニアラサレハ林カ右ノ語ヲ発スルノ理ナシ故ニ自分ハ岩神モ同謀ト聞取リシ様記憶セリ

一桑原之成ヲ自分ト見誤リ不圖(四)暗殺一條ヲ語リタルニ付桑原他言セサル様堅ク口留セヨト好静ヨリ有造ニムカイテ云シ事ハ相違ナシ自分ト已前ヨリ懇意ナルニ林カ自分ヲ見誤リタルハ如何ナル故カ知ラサレ共桑原カ林ヲ訪ヒシ日夜分ナリシユヘ不圖見誤リシナラン

一林カ自分ニハ暗殺一條ヲ秘セスシテ語リタルニ桑原ニ秘スルノ意アリシハ如何ト御尋アレ共林カ此事ヲ桑原ニ聞セテハナラストト云ヒシニ非ス自分ノ考ニテ桑原ノ口留メセ

ニナリ

右之通相違無御座候

明治十年九月五日

高知縣士族

藤好靜拇印

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

第拾弐号

明治十年八月三十日申立

高知縣士族 藤好靜

一甚恥入ナレ𪜈京都府ノ御訊問以来自分ノ申供中ニハ大ニ偽タルコトアリ一昨廿八日ノ供白モ御取消願ヒ更ニ申立タキナリ

一自分日州ヘ赴クコトハ誰ニモ談シタルコトナシ其譯ハ高知縣ニ於テハ自分ニ同意ニシテ兵ヲ擧ルヘキ者一人モナキヲ以テナリ然レ𪜈自分ニ於テハ是非日州ノ地ヲ見分シタル上ニ非ラサレハ決シテ心得ナリシナリ何トカ策ヲ運ラシ兵ヲ挙ルノ心得ナリシナリ尤健吉ヘハ日州行ヲ談シタルナリ其所以ハ唯旅費金ニ乏キニ付内話ニ及ヒ且金子備(借)

用ノ依頼ヲナシタル處夫レハ必ス
ヲスト申シ止メラレタリ併自分ハ其意ヲ遂
ケント存スル故一旦佐岡ノ説諭ニテ見合タ
シ旦既ニ此言ヲ發シタル上ハ假令行クモ
カサルモ縣廳ヨリカ社中ヨリカ縛セラルヽ
ヽ必然ニ付尚又強テ健吉ヘ日州行ノヲヨ相
談シタル處健吉承諾シテ金百圓ヲ貸呉レタ
リ其節自分健吉ニ向テ玄ノ我行ハ必ス口外
アルヘカラス足下限リ心得呉レヨト健吉ニ
諾セリト夫ヨリ自分一人ニテ出立ノ積リナリ
シカ其際村松政克何レヨリ傳承シタルヤ自
分方ニ来リ云フ拙者モ是非日州ヘ同行シタ
シト依テ不得止同道シタルニテ最初ヨリ
村松ト協議シタルニ非サルナリ
一日州ヨリ帰縣ノ節彼地ノ景況ヲ誰ニカ談シ
一同意セシメントヲ思ヒタレ共是ソト頼ムヘキ
者一人モナク且社中ニテ容易ニロ外スレハ
忽チ縛セラルヽニ付其談ヲナス能ハス依テ
自分以為ラク立志社ノ人員ニ相談シテ同意
セシメンニ如カスト於是池田應助谷重
喜岩崎長明山田平左衛門等ヲ説成舘ニ招
キ賊地探偵ノ顛末且桐野ト約束ノ等逐一
陳述シ且此上ハ是非共兵力ヲ以テ事ヲナス
ヘシト示談セシ處四人ニ於テハ更ニ同意セ
スシテ云ク決シテ戦争ヲナスヘキ支ニハ非ス
止ムヘシト依テ不得止其節自

分ヨリ四人ニ向テ此談ハ必ス口外アルヘカラ
スト遽テ依頼シタルナリ
一池田等四人ハ既ニ不同意ノ事ニ同意スヘキ見込
度ト思ヒタレ共挙兵ノ事ニ慕ルヘキ人數モナ
ノ人物一人モナク又他ニ慕ル人物モ之レ自分ハ是非共事ヲナスヘキ見込ナ
ル故ニ付元来ハ擧兵ノ事ニハ意ナキ村松政克
野嵜正朝桑原之成等ヲ勧メ当今決テ事ヲ擧カヲ
以テナスヘキ時ニ非ス是非暁カラ以テナスヘ
シト無理ニ同意セシメタルナリ
一右ノ末誰ノ年長ノ者ヲ同意致サセ度思ヒ居
ル際幸ヒ林有造六月一日頃東京ヨリ帰縣シ
タルニ付即日有造方ヘ参リ面會シ陸軍省ヨ
リ神田屋方之弾薬御買上ケヲ拒ムヘキノ相
談ヲナシタル處有造云フ近頃京摂間ニ暗殺ヲ謀ル者五六名アル
ス時ニ非サルユヘ其御買上ケヲ拒ムヘキ謂ル
ナシト依テ年残念其ノ使ヲ致シタリ其節有
造云フ近頃京摂間ニ暗殺ヲ謀ル者五六名アル
趣ヲ岩神昂ヨリ聞タルニ付拙者昂ニムカヒ
右様ノ変ハ決シテ相不成又ハ他ニ口外トハ
不宜ト口止メヲシテ相帰リタルカ其口ノ乾カ
ラサルニ不図誤テ桑原之成ヘモ話シタリト
依テ自分以為ラク予ヲ熱心スル挙兵ノ事モ
無覚束左スレハ暗殺ノ事ヲ他人ヘモ話スモ難
ヨシ然ルニ林又々此事ヲ他人ヘモ話スモ
計左スレハ誠ニ不都合ナリト依テ自分ヨリ林

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

ニ向テ暗殺一件ハ必ス外ヘ洩泄セサル様注意アルヘ
シト申タリ夫ヨリ楽原ヘモ決シテ口外スマ
シキ旨ヲ自分ヨリ申シタリ先日林有造ヨリ
自分等ヘ口留ヲナセシ段申立タルハ全ク偽
リナリ
一其後神田屋方ニ残リノ弾薬アルヲ陸軍省ヨ
リ又御買上ケニナル趣ニ付其節モ同志共
之レヲ拒ムヘシト林ヘ相談セシ処矢張林ヽ
止メラレタリ右ノ次第ニ高知縣ニ於テ兵
ヲ挙ケント企テタル者ハ全ク自分ノミニテ
外ニハ一人モナシ且應助等四人ヲ開成
館ヘ會セシモ自分ヨリ招キ強テ自分ヘ同意
シタルヘキ旨申述タルナリ・ニテ抑日州行ノ企
テヨリシテ挙兵ヲ謀リシヿ等都テ自分一人
ノ發意ニテ他ニ関係セル者一人モナシ依テ
前日来虚言申立シハ一切御取消ヲ願タキナ
リ
右之通相違無御坐候

高知縣士族
藤好靜拇印

明治十年九月五日

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

明治十年十月十七日午前申立

高知縣士族　藤好靜

一自分日州行ヲ企テタル時旅費金借用ノコト
元岡健吉ニ依頼シタレハ健吉ハ承諾セサリシカ其後尚又自分健吉ニ依頼セシ処健吉承諾シ然ラ貸スヘシトテ金百円ヲ貸シ呉レタリ

一當春西南戦争ノ始リシ時比自分一己ノ心得迄ニ戦争ノ模様探索ノ為メ西京ニ上リタリ右旅費ハ前ノ事ニメ且自用ノ事ニヘ自分ノ処持金ヲ以テ辨シタルナリ其節西京ノ滞留ハ松方ニ滞留セリ松方ニハ林ニ由ヲ自分ハ宿ニテ林直庸大江卓両人ニ居宿セ余止宿人有無ハ自分ニ承リ両人ヘ一應面會スル其ニテス

五日間ニメ往復日數ハ十日程懸リシナリ

一自分親兄弟等ニハ日州行ノコトヲ隠慿セシコト

一旅費金借用ノ証書ハ自宅ニテハ認メス健吉カ宅ニ於テ健吉カ面前ニテ認メタリ右証書ハ村松政克カ執筆セシ様記臆スレトモ確トハ覚ヘサルナリ

一旅費金借用証書之用紙ハ自分半紙ニ認メ差入置ク積ニテ半紙ヲ持参セシ所其ヒニテハ證書ニ相不成ト言テ健吉カ持合ハセタル無印紙証書用紙ヲ健吉ヨリ貰ヒ受ケテ之ヲ用ヒタリ其証書ノ文面ハ自分政克連名健吉宛ニテ金百円日州行ニ付借用スル旨ヲ認メタ

一健吉宅ニテ証書ヲ認メタル時自分ハ印判ヲ携ヘサリシニ付一旦帰宅シテ調印セリ尤政克モ調印シタリシト覚ユ

一自分ハ部屋住ノコトユヘ實印ヲ取持セサリシニヨリ實印入用ノ時ハ自宅ニ有合ハセノ印判角形ニメ文ヲ用ヒタリシカ健吉ニ差入レシ日州行旅費金借用証書ニモ即チ此印ヲ用ヒタルナリ而シテ自分印肉ハ常ニ朱肉ヲ用ヒタルカ健吉宅ニテ印肉ハ借用セス右印判ヲ唇ヨリ粘着シテ引キ出シ朱肉ノ代ヲ緊ク押付シナリ尤政克モ朱肉ヲ用ヒタリト覚ユ

一印影御示有之一覧セリ自分取持ノ印判ハ此印影ニ相違ナキナリ

右之通相違無御坐候

明治十年十月廿四日

高知縣士族

藤好靜㊞

第十四号

明治十年十月廿三日申立

高知縣士族

藤好靜

一明治十年十月十七日自分村松政克ト對質ノ
口供第廿四條ニ彈藥ヲ奪ハントセシコトモ專
ラ自分カ企テシコトヘ云々ト申立タレハ右
ハ彈藥ヲ奪ハントノ意ニ非ス矢張八月三十
日申立ノ第五項ニ供述セルタル
通リ六月一日ニ林有造方ヘ參リ面會シ陸軍
省ヨリ神田屋方ノ彈藥御買上ヲ拒ムヘキノ
相談ヲナセルタル節ノ事ヲ申立タル心得ニ付
奪ノ字ハ御取消ヲ願度ナリ
一十月十七日自分村松ト對質ノ義ニ付仍ホ退

テ勘考スレハ右ハ結局代岡健吉村松政充并ニ自分三人ヲ御突合セアリタキナリ其所以ハ自分ニ於テハ日州行掛費百円金ノ借用証書ハ必ス健吉ニ差入レタリト存スレ共村松ニ於テハ差入レスト供述セリ付テハ健吉ニ於テハ差入レスト供述セリ付テハ健吉ニ於テハ何申上置タルヤハ計リ難ケレ共乃チ放テ加何申上置タル果レテ健吉カ証書ヲ受取タル覚ナキ旨申立レハ自分ハ全ク覚違ナルヘク又健吉ニ於テ証書ヲ受取タル旨申立レハ自分ヘ入レタリト申立タル迄ニテ百カ差入タリトノ覚ニ相違ナキヲ以テ健吉ノ拘留ニナリシ取扱ハ自分カ日州行ノ関係ヨリシテノコトナレハ本人ヘモ甚迷惑ヲカケル次第ニ付健吉ヘ御突合ノ上自分最初日州行ノ義ヲ健吉ヘ談シタル事ヨリシテ百円金借入ノ顛末等ニ至ル迄陳述致シタキナリ左スレハ証書ノ義ハ勿論其他モ総テ明瞭ニ至ルヘキト思考スルナリ

一村松ニ於テハ日州行ニ付金百圓金ヲ健吉ヨリ借用致シタリト申ス所ノ自分ハ於テ借用證書ハ差入レサルトノ申分ハ何処迄モ其ヲ甚タヲ解シ難キナリ左レ共村松カ此ク申立ル以上ハ甚日州行掛費借用証書ハ全ク自分カ認メ健吉ハ差入レタルニ相違ナキナリ然ルニ村松ニ於テ尚又其証書ハ全ク自ラ認メタルニ相違ナレトテ其村松カ認メタル証書

面ノ由ニテ唯今御下示ニ相成リ一見スレハ實ニ意外ノ次第ナリ付テハ村松カ是迄差入タル覚ナキ旨申立タルハ定テ村松カ覚違ナルヘシ併其文義ハ果シテ其通リナリシヤ否ヤ自分ハ確ト記憶セサルナリ

一日州行ニ付任岡健吉ヨリ百円ヲ借入シ義ハ自分村松ト惣テ相談シタルニ相違ナキナリ

右ニ通相違無御坐候

明治十年十月廿七日　高知縣士族　藤好静　㊞

第十五号

明治十年十月廿四日申立　高知縣士族　藤好静

一去ル十七日自分村松改克ト對質ノ節日州ニ赴クノモ又弾薬ヲ奪ハントセシノモ專ラ自分カ企テシ旨陳述セシトカ右弾薬ヲ奪ハシトセシトハ全ク自分カ申誤ニメ神田屋所持ノ弾薬ヲ陸軍省ニ引渡スノヲ自分カ拒マントセシヨリ此事柄ハ先比御審問ノ節ニモ申上タル通明治十年六月三四日比陸軍省ヨリ神田屋所持ノ弾薬ヲ御買上ノ為陸軍省ノ御用船高知ニ来リシ件自分林有造ニ向テ云拙者ハ元来腕力論ヲ主張メ既ニ日州ニモ赴

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

キタルヲナルカ今足下抽者カ論ニ同意ナラハ
神田屋所持ノ弾薬ハ必用ノ物品ニヘ決メ陸
軍省ニ渡スヘカラスト云者造云改府ニ對シ
不平ノヲアラハ之ヲ改府ニ両度モ建白シテ
然ルヘシ決メ腕カヲ用井ル事ニハ相不成因
テハ神田屋所持ノ弾薬ハ勿論若シ其他ニモ
所持ノ弾薬アラハ悉皆陸軍省ニ差出スヘキ
ナリト其後残餘ノ弾薬積込ノ為ノ尚又陸軍
省ノ御用船高知ニ来リシ井モ自分再ヒ有造
ニ向ヒ前顕同様談シタレ氏有造堅ク之ヲ止
メタルニヨリ自分ハ無援思ヒ止リシナリ
一自分ハ元ヨリ腕カ論ヲ主張セシカ其比有造
ハ上京中ニ付谷重喜池田・應助等ニ自分ノ意

見ヲ語シタレ氏一向同意セス其他一人モ同
意スル者ナカリシユヘ有造カ帰縣後自分ハ
有造ヲ誘フ所存ニテ前条ノ通再度迄有造ニ
談シタル所有造ニ於テモ終ニ同意セサリシ
ナリ
一右弾薬一条談話ノ為メ初度自分カ有造宅ニ至
リシ井有造カ東京ヨリ帰縣後比ナリ其談話ノ未京
ニ三日ヲ経タルニ
掫間ニ於テ暗殺セン
トヲ有造ヨリ自今ニ語リタルナリ
一有造カ桑原之成ヲ自分ト見誤リ暗殺一条ヲ
不図之成ニ語リタル吉有造ヨリ自分ヘ相話
シタルニ付其後之成カ自宅ニ来リシ井自分
之成ニ向ヒ足下カ有造ヨリ聞シ事柄ハ他言

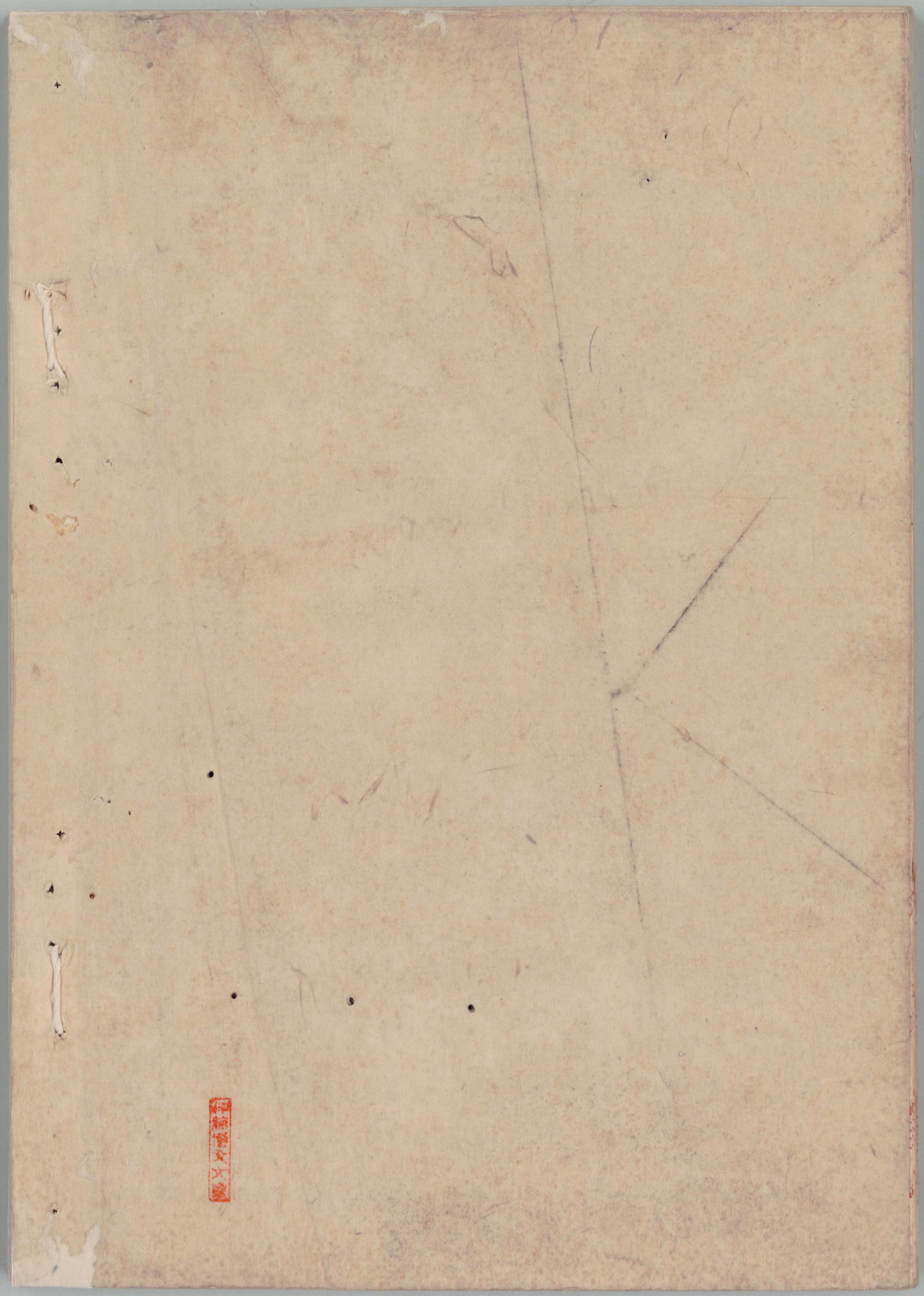
スヘカラスト口笛セシヨトハ相違ナキナリ尤
有造カ暗殺一条ヲ之成ニ語リシヿハ相違ナ
キヤ否ヤハ當時自分其席ニアリテ親ク之ヲ
聞カサリシヿユヘ其保證ハ出来サレヒ自分カ
之成ニ口笛セシヿハ相違ナキニヨリ若シ自
分ト之成ト申口齟齬スレハ之成ト御突合セ
被下度ナリ

右之通相違無御座候

明治七年十月廿七日　高知縣士族　藤好靜拇印

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1



国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 335-1